

# スイッチでのリモートネットワークモニタリング(RMON)イベント制御設定の設定

## 目的

リモートネットワークモニタリング(RMON)は、ローカルエリアネットワーク(LAN)のモニタリングとプロトコル分析をサポートするために、インターネット技術特別調査委員会(IETF)によって開発されました。これは、異なるネットワークモニタとコンソールシステムがネットワーク監視データを相互に交換できるようにする標準の監視仕様です。RMONを使用すると、ネットワーク管理者は、特定のネットワークニーズを満たす機能を持つネットワークモニタリングプローブとコンソールから選択できます。RMONは、ネットワーク監視システムが提供できる情報を明確に定義します。統計情報、イベント、履歴、アラーム、ホスト、ホスト、ホストのトップN、マトリクス、フィルタ、キャプチャ、およびトータリングは、RMONの10のグループです。

RMONを使用すると、デバイス内のSimple Network Management Protocol(SNMP)エージェントが、特定の期間のトラフィック統計情報を予防的に監視し、SNMPマネージャにトラップを送信できます。ローカルSNMPエージェントは、実際のリアルタイムカウンタを事前定義されたしきい値と比較し、中央のSNMP管理プラットフォームによるポーリングを必要とせずアラームを生成します。これは、ネットワークのベースラインに対して正しいしきい値を設定していれば、予防的な管理に有効なメカニズムです。

注：スイッチでSNMP設定を構成する方法については、[ここをクリックして手順を確認してください](#)。

RMONは、SNMPマネージャが情報のためにデバイスを頻繁にポーリングする必要がないため、マネージャとデバイス間のトラフィックを減少させ、デバイスがイベントを発生すると報告するため、マネージャがタイムリーなステータスレポートを取得できるようにします。

この記事では、スイッチのRMONイベント制御設定を設定する方法について説明します。

## 該当するデバイス

- Sx250シリーズ
- Sx300シリーズ
- Sx350シリーズ
- SG350Xシリーズ
- Sx300シリーズ
- Sx550Xシリーズ

## [Software Version]

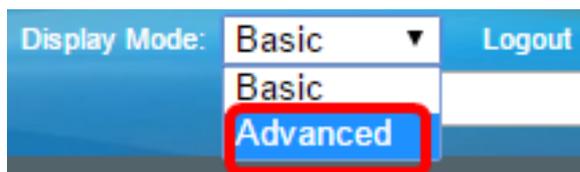
- 1.4.7.05 — Sx300、Sx500
- 2.2.8.04 — Sx250、Sx350、SG350X、Sx550X

## スイッチでのRMONイベント制御設定の設定

### RMONイベント制御の設定

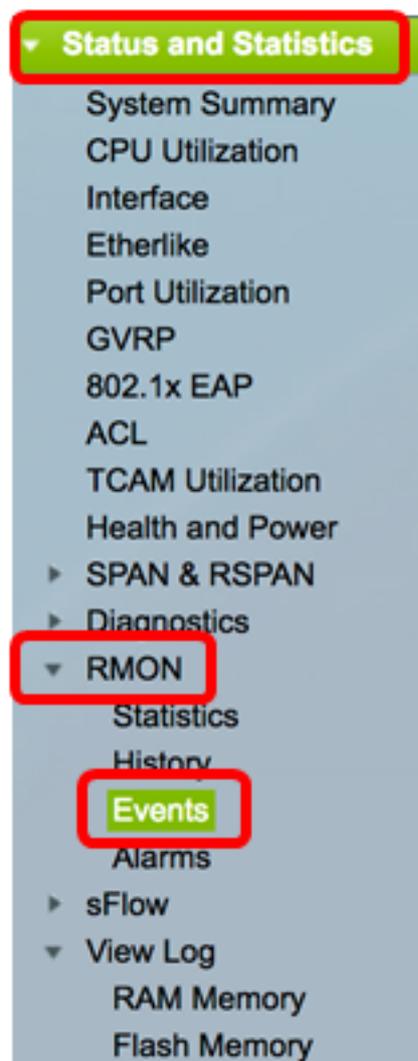
ステップ1：スイッチのWebベースのユーティリティにログインし、[Display Mode]ドロップダウンリストで[Advanced]を選択します。

注：この例では、SG350X-48MPスイッチが使用されています。



注：Sx300またはSx500シリーズスイッチを使用している場合は、ステップ2に[進みます](#)。

[ステップ2](#): [Status and Statistics] > [RMON] > [Events]の順に選択します。



イベントテーブルの情報は、[Time]以外の[Add RMON Events]ダイアログボックスで定義します。

## Events

Event Table						
<input type="checkbox"/>	Event Entry No.	Community	Description	Notification Type	Time	Owner
0 results found.						
<input type="button" value="Add..."/> <input type="button" value="Edit..."/> <input type="button" value="Delete"/>						
<input type="button" value="Event Log Table"/>						

ステップ3:[Add]をクリックし、イベントテーブルに新しいイベントを追加します。

Event Table						
<input type="checkbox"/>	Event Entry No.	Community	Description	Notification Type	Time	Owner
0 results found.						
<input type="button" value="Add..."/> <input type="button" value="Edit..."/> <input type="button" value="Delete"/>						

[イベントエントリ]領域には、新しいエントリのイベントエントリインデックス番号が表示されます。

ステップ4: ( オプション ) [Community]フィールドに、トラップの送信時に含めるSNMPコミュニティストリングを入力します。これは、SNMPトラップが送信される場合に使用されます。設定されていない場合は、アラームカテゴリで設定されている各トラップグループにトラップが送信されます。

Event Entry: 1

Community:  (11/127 characters used)

注：この例では、Community 1が使用されています。

ステップ5:[説明]フィールドに、追加するイベントのユーザー定義名を入力します。

Description:  (20/127 characters used)

注：この例では、Logs for Community 1が使用されています。

ステップ6:[Notification Type ( 通知の種類 )]領域で、このイベントによって発生するアクションの種類をクリックします。

Notification Type:  None  
 Log (Event Log Table)  
 Trap (SNMP Manager and Syslog Server)  
 Log and Trap

次のオプションがあります。

- None : アラームがオフになっても、アクションは発生しません。
- Log(Event Log Table) : アラームがオフになったときに、Event Logテーブルにログエントリを追加します。
- Trap (SNMPマネージャおよびSyslogサーバ) : アラームがオフになると、トラップをリモートログサーバに送信します。
- Log and Trap : イベントログテーブルにログエントリを追加し、アラームがオフになったときにトラップをリモートログサーバに送信します。

注 : この例では、[Log and Trap]が選択されています。

ステップ7 : イベントを定義したデバイスまたはユーザーを[所有者]フィールドに入力します。

Owner:  (5/160 characters used)

注 : この例では、ciscoが使用されています。

ステップ8:[Apply]をクリックし、[Close]をクリックします。RMONイベントは、実行コンフィギュレーションファイルに保存されます。

Event Entry: 1

Community:  (11/127 characters used)

Description:  (20/127 characters used)

Notification Type:

- None
- Log (Event Log Table)
- Trap (SNMP Manager and Syslog Server)
- Log and Trap

Owner:  (5/160 characters used)

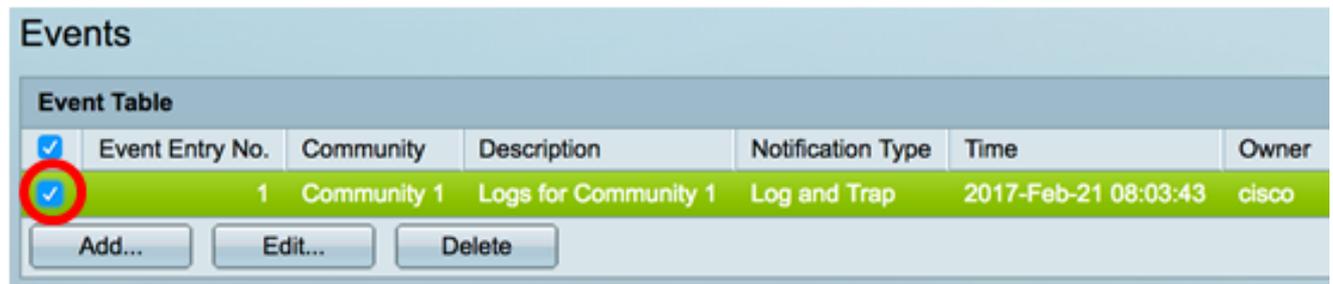
ステップ9 : ( オプション ) [Save]をクリックし、設定をスタートアップコンフィギュレーションファイルに保存します。



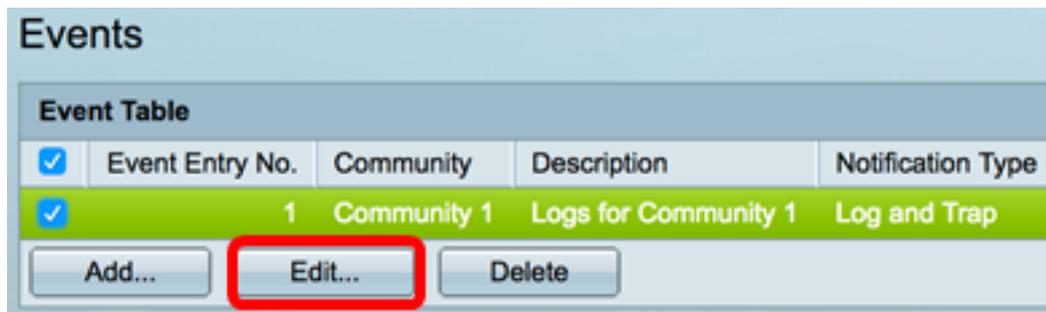
これで、イベントテーブルに新しいイベントが追加されました。

## RMONイベントの編集

ステップ1: イベントテーブルで、編集するイベントエントリの横にあるチェックボックスをオンにします。



ステップ2:[Edit]ボタンをクリックして、RMONイベントエントリを編集します。



ステップ3: ( オプション ) イベントエントリ番号、コミュニティ、説明、通知タイプ、オーナーの詳細を適宜編集します。

Event Entry No.: 1

Community: Community 1 (11/127 characters used)

Description: Logs for Community 1 (20/127 characters used)

Notification Type:
 

- None
- Log (Event Log Table)
- Trap (SNMP Manager and Syslog Server)
- Log and Trap

Owner: cisco (5/160 characters used)

Buttons: Apply, Close

注：この例では、[Notification type]が[Log and Trap]から[Trap]に変更されています (SNMP ManagerおよびSyslog Server)

ステップ4:[Apply]をクリックし、[Close]をクリックします。

ステップ5: (オプション) [Save]をクリックし、設定をスタートアップコンフィギュレーションファイルに保存します。

Save

3-Port Gigabit PoE Stackable Managed Switch

Events

Event Table	Event Entry No.	Community	Description	Notification Type	Time	Owner
<input type="checkbox"/>	1	Community 1	Logs for Community 1	Trap (SNMP Manager and Syslog Server)	2017-Feb-21 08:03:42	cisco

Buttons: Add..., Edit..., Delete

Event Log Table

これで、イベントテーブルでイベントが正常に編集されました。

## RMONイベントの削除

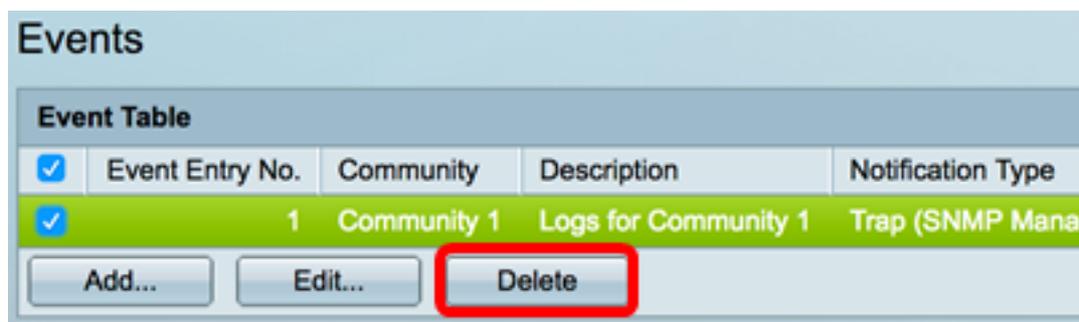
ステップ1：イベントテーブルで、削除するイベントエントリの横にあるチェックボックスをオンにします。

Events

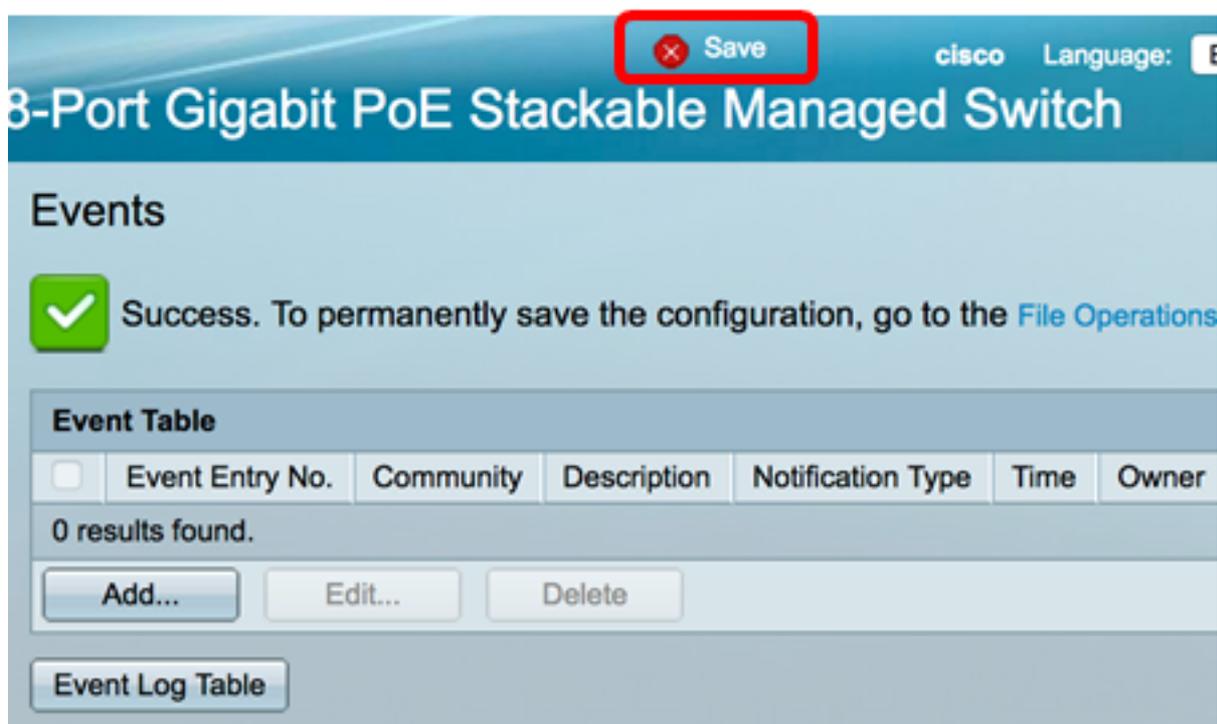
Event Table	Event Entry No.	Community	Description	Notification Type
<input checked="" type="checkbox"/>	1	Community 1	Logs for Community 1	Trap (SNMP Manager and Syslog Server)

Buttons: Add..., Edit..., Delete

ステップ2:[Delete]ボタンをクリックして、RMONイベントエントリを編集します。



ステップ3: ( オプション ) [Save]をクリックし、設定をスタートアップコンフィギュレーションファイルに保存します。

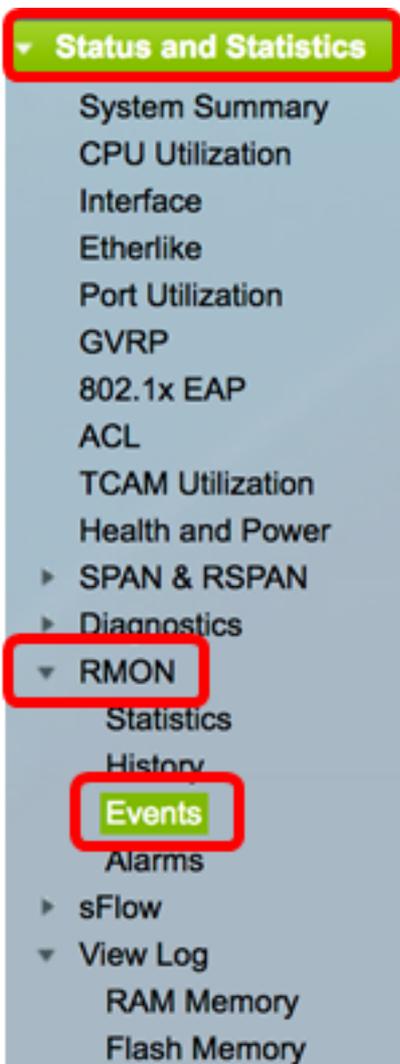


これで、イベントテーブルからイベントが正常に削除されました。

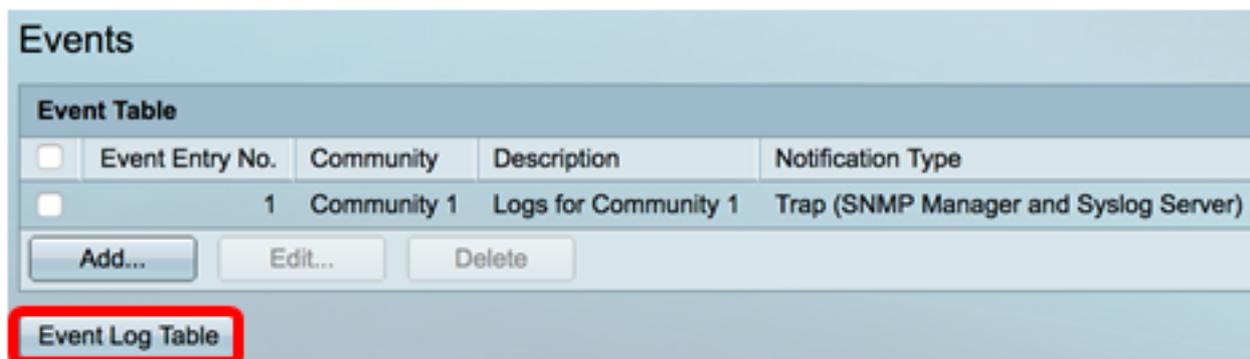
## RMONイベントログの表示

[イベント]ページには、発生したイベントまたはアクションのログが表示されます。次の2種類のイベントを記録できます。ログまたはログとトラップ。イベント内のアクションは、イベントがアラームにバインドされ、アラームの状態が発生したときに実行されます。スイッチでRMONアラームを設定する方法については、[ここをクリックしてください](#)。

ステップ1:[Status and Statistics] > [RMON] > [Events]の順に選択します。



ステップ2:[Event Log Table]ボタンをクリックします。



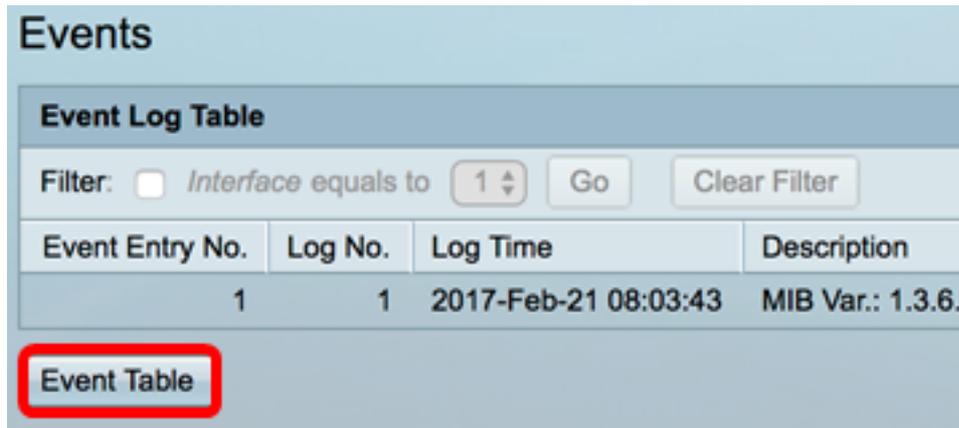
このページには、次のフィールドが表示されます。



- Event Entry No. – イベントのログエントリ番号。
- Log No. : イベント内のログ番号。

- Log Time : ログエントリが入力された時刻。
- [Description] : アラームをトリガーしたイベントの説明。

ステップ3: ( オプション ) [Event Table]ボタンをクリックして、[Event Table]に戻ります。



The screenshot shows a web interface titled "Events". Below the title is a section labeled "Event Log Table". This section contains a filter area with a checkbox, the text "Interface equals to", a dropdown menu showing "1", a "Go" button, and a "Clear Filter" button. Below the filter is a table with the following data:

Event Entry No.	Log No.	Log Time	Description
1	1	2017-Feb-21 08:03:43	MIB Var.: 1.3.6.

Below the table is a button labeled "Event Table", which is highlighted with a red rectangular box.

これで、スイッチのイベントログが正常に表示されるはずですが。